

## パブリックコメントの結果について

### 1 意見募集の期間

令和7年11月21日(金)～12月5日(金)

### 2 意見提出の状況

7件(1人):電子メール  
1件(1人):電子メール  
計8件

### 3 意見の概要・理由及び意見を受けての対応等

意見の概要	意見の理由	修正の有無	意見を受けての対応
「文化芸術のみの領域ではなく、“越境連携”あってこそ、すべての人たちに届くもの、当たり前にあるもの」と考えます。この視点に立った時に、計画遂行の際に「どの部局等との連携をとおして遂行しようとしているのか」等がもっと具体的に明確に記されてもよいのではないかと思いました。	福岡県として“越境連携・部局連携の姿勢”をもつと指し示していただきたいと思うからです。	無	府内連携につきましては、社会情勢の変化等も踏まえながら、関係部局を限定せず、幅広に連携を図るため原案のとおりとさせていただきます。
【P2】1社会情勢の変化 (1)人口減少と少子高齢化の進行について 文末に「特に地方部での文化芸術の担い手が減少する中で、地域の伝統的な文化芸術が失われないよう、保存・継承する取組が一層求められます」とありますが、この文章のあとに、「特に地方部での文化芸術の担い手が減少する中で、地域の伝統的な文化芸術の保存・継承をはじめ、“生活に根ざした文化”あるいは“芸術文化”的享受機会を拡大する取組が一層求められます。」	「【P6～】4 実態調査」においては「鑑賞した県民の割合」や「関心」あるいは「取り組むべきこと」「重要なこと」「実践したジャンル」「条件」など、いわゆる“振興”に関する調査結果が示され、そして「障がない」「文化財」「諸外国発信」と、のちの「3章の目標・柱」、そして「4章の展開」とつながっていく構成となっています。 また、関連する【P23 の課題】そして【施策】には人づくりに関しては、「継承」のみでなく、やはりきちんと「振興」に関する人材育成の計画も網羅されて	有	頂いた意見を踏まえ下記のとおり修正します。 【P2】1 社会情勢の変化 (1)人口減少と少子高齢化の進行について このような深刻な少子高齢化の進行による人口減少等により、特に地方部での文化芸術の担い手が減少する中で、地域の伝統的な文化芸術が失われないよう、保存・継承・ <u>発展</u> する取組が一層求められます。

<p>といったような、保存・継承のみでなく、いわゆる“振興”も求められることを加えていただければと思います。</p>	<p>います。その割には、冒頭となる上記の章において表現されている文書では、「伝統文化の継承のみに留まっている」と思いました。無論、読み解き方にもよりますので、上記で述べたような内容も含むと言わればそれまでですが、この答申の冒頭に近い章の中で、少子高齢化という社会情勢の変化のひとつとして、保存継承のみならず、“振興”も重要課題と考えますので、明文化していただきたいと思いました。</p>		
<p><b>【P3】2 国の動向</b>            (1)から(8)まであります。主に、近々の動向でありますので、かなり遡ってしまうことになりますが、令和24年に施行された「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」があり、10年の歳月が立ち、現在、見直し並びに検証に入っている状況にあります。            大きな指針でありますので、参考までに意見させていただきました。</p>	<p>県内各市町村には、「文化振興条例」「文化基本計画」「文化審議会」等の条例、機関が無い市町村もまだ数多いため、福岡県における「文化振興条例」や「基本計画」は、市町村においても羅針盤的な要素もあると考えます。</p>	無	<p>国の動きについては、ご記載のとおり近々の動向(主として現計画期間中のもの)を記載させていただいておりますので原案のとおりとさせていただきます。            頂いた意見を踏まえ、本法律の趣旨も踏まえ、今後の施策に取り組んでまいります。</p>
<p><b>【P13】第3章 計画の目標と施策の体系</b>  <b>1 目指す姿と「4つの施策の柱」</b>            目指す姿「県民の心豊かな生活及び活力ある地域社会の実現            「また、文化芸術には、人々のつながりを創出してコミュニティを活性化する効果や、人々の日常生活の困難や、災害時などの特別な状況における心の癒しにも貢献します」という文書に関して、「心の癒しにも貢献します」という表現は、そもそも文化芸術というものをどう捉えているのか?という根本の問題となります。            例えば、「また、文化芸術は、人々のつながりを創出してコミュニティを活性化する効果はもとより、</p>	<p>我々は「日常において、当たり前に文化芸術が享受できる社会」を目指している訳で、非常時においてはまずはライフライン等の確保が最優先ではありますが、文化芸術は、日常の中で人々が生きる力を持つ根底になる力を持つものであり、非日常が訪れた際に「早く日常を取り戻したい、この災害を乗り越えていこう」という、生き抜く力の根本にあるのが、文化芸術であり、そのために我々は、こうした計画を持ち、誰一人取り残さない社会づくりを、文化芸術の力を信じて日々、まい進しているのだと思います。            文化芸術享受の捉え方の根本にあたる部分だと思い、ご意見させていただきました。</p>	有	<p>いただいた意見を踏まえ下記のとおり修正します。  <b>【P13】第3章 計画の目標と施策の体系</b>  <b>1 目指す姿と「4つの施策の柱」</b>            「また、文化芸術には、人々のつながりを創出してコミュニティを活性化する効果や、人々の日常生活の困難や、災害時などの特別な状況において、<u>生きる希望や勇気をもたらす効果もあります。</u>」</p>

<p>人々の日常生活の困難や、災害時などの特別な状況においては、どんな困難にぶつかっても、生きる力を回帰させ、奮い起こさせる生命の源となる不要不急のものです」。</p> <p>くらいの強い表現を使ってもよいのではないかと思いました。</p>			
<p><b>【P13】第3章 計画の目標と施策の体系</b></p> <p><b>1 目指す姿と「4つの施策の柱」</b></p> <p>世界遺産等の文言にはじまり、8行目の「受け継いでいくとともにー」との文書で、「ともにー」というつなぎではなく、それ以降の文書は、別のものとして、書いてほしいです(文言順の入れ替えだけですが、以下例え…です)。</p> <p>福岡県民一人ひとりが自分らしく、文化芸術を創造し、享受することができる環境づくりを進めます。また福岡県には、2つの世界文化遺産をはじめ、文化財、伝統工芸、食文化等、歴史の営みの中で培われてきた、本県が誇るべき魅力あふれる文化があります。地域で守り伝えられてきたこれらの文化を守り、より良いものに高めます。文化振興と継承をとおして地域の暮らしの中に文化芸術があふれ、このことを将来を担う世代に受け継ぎ、県民の心豊かな生活と活力ある地域社会の実現を目指します。また、4つの施策の柱《文化芸術の振興》を→《文化芸術の振興と継承》にできないかと思いました。</p>	<p>この目指す姿の次にある、4つの施策の柱の柱立てが、「《柱1》文化芸術の振興」「《柱2》環境づくり」から始まる柱になっており、文書中にも「文化芸術の振興と継承に取り組みます」とありますので、この「目指す姿」の項目も、振興と継承を分かりやすく表現した方がよいのでは…と思ったからです。</p>	無	<p>文化芸術を振興することと、継承することの趣旨は原案にて内包されておりますので、原案のとおりとさせていただきます。</p>
<p><b>【P16】第4章 施策の展開 の章、全般に関して</b></p> <p><b>【主に、P7~11 の調査結果からの具体的な課題として表記されている P23.32】。</b></p> <p>福岡県としての文化振興の在り方について、県内の60市町村の格差を無くす、あるいは格差を縮める視点は、どのくらい重要視されているのか?という</p>	<p><b>【理由】</b>微力ながら「文化芸術イノベーションアカデミー」に関わらせていただき、この事業が福岡県にとって画期的であったことと同時に、上記の県内の格差を痛感しています。アカデミーに関しては最終年度を迎える令和8年度ですが、令和9年度以降も継続し実績を踏まえ、より60市町村を視野に</p>	無	<p>文化芸術の格差につきましては、地域ごとに特色ある文化芸術活動が行われており、その内容も多種多様であることから、どのような指標をもって文化芸術の格差とするのか難しい面があると考えています。</p> <p>市町村が取り組むことは難しい文化芸術活動に</p>

ことを思います。	いれた事業に更新し、文化芸術の力を用いた各地域の課題解決をと思いますし、令和9年度の「福岡県アーツカウンシル」の創設ともリンクした事業となることを願うものです。		つきましては、市町村のご意見をよく聞きながら、県立美術館、九州国立博物館、県立図書館などの文化資源を十分に活用し、市町村の求めに応じて文化芸術振興の取組を進めてまいります。
【P35 第5章 推進体制】 この章にて提案されている(1)～(3)の連携 (4)の「福岡県アーツカウンシル」の設立 これこそが、この基本計画推進の肝であると思います。 表記されているとおり、「住民にとって最も身近な行政主体である市町村」—各市町村各部局連携、—各市町村施設連携、「小中学校等における機会の充実」—県教委・市町村教委 一県文化団体・市町村文化団体、一県内実演家、また「庁内連携」→各市町村によって異なる地域課題解決のための視点探し そして「福岡県アーツカウンシル」に関しては、記載のとおり『県全体を捉え、より俯瞰的な視野から検討を行い、本県にとって最適な文化芸術活動の支援の仕組みづくり』とのことですが、実際に設立された際には、行政機関との距離感を踏まえつつも大胆に、かつ単なる相談窓口・アドバイザーではなく、機動的・機能的にアクションを起こし、60市町村の主体性を尊重ながらも、新しい文化芸術の振興と伝統文化の継承を視野に入れた人材の育成・配置を期待するものです。	この計画を遂行するのは、結局のところ“人”です。よき人材の登用に期待したいためです。	無	頂いた意見を踏まえ、「福岡県アーツカウンシル（仮称）」の設立に向けた検討を進めてまいります。
音楽文化を県民がもっと広く親しめる環境の充実・拡大を希望し提案します。 特に器楽の演奏公演を身近に聴き楽しむ、あるいは興味ある楽器を自ら習い演奏できる活動の場の	本県のこれまででは、オーケストラを中心とする音楽文化への視点や対策が薄弱であると感じています。 今回、ジュニアオーケストラに初めて予算が配分さ	無	頂いたご意見を参考に、 【P24】(1)文化芸術を育む人づくり イ 青少年・高齢者の文化芸術活動の充実「②「アクロス福岡」において、小学生から高校生で

拡大・充実、県内どこにいても広く体験可能となる環境をつくるべきであると願います。

県内の器楽・オーケストラ活動での助成関係は、2019年に活動始めたジュニアオーケストラが新しく、音楽文化に興味ある子供たちにとって格好の活動の場となりました。

本県の特徴は、高校・大学オーケストラを始めとして、九州交響楽団を頂点とする社会人中心のオーケストラは、県内に30数団体と西日本地域では飛びぬけて活況を呈していることが大きな利点でもあります。

今回の第2期基本計画に是非とも音楽文化(特にオーケストラ部門)の特記を実現していただき、今後の発展・飛躍を望みます。

れることとなり喜ばしいところですが、もう一步さらに音楽文化に支援を希望するものです。

今後、県民の高齢化が進行する中で、音楽文化に興味ある県民は、県内どこに住んでいても参加出来、生涯を通じて器楽に楽しめる環境を整備することは喫緊の課題であると考えます。

住みやすく暮らしやすい、こころ豊かな福岡県でありたいと願います。

構成される「ジュニアオーケストラ」の活動に対する支援や未就学児も入場できる「アクロス・クラシック・フェスタ」、「マタニティコンサート」の開催など青少年の文化芸術活動の充実を図ります。」の記載のとおり、「ジュニアオーケストラ」をはじめとして、音楽文化の振興にも取り組んでまいります。